

「4種年代と8人制サッカーの審判について」

－ 将来の日本サッカーを支える選手の育成 －

2015年5月17日
国際主審 佐藤 隆治

今日の内容

- 自己紹介
- 日本サッカーの現状・課題
- 8人制サッカーに伴う1人審判
- 質疑応答



PR(プロフェッショナルレフェリー)



主審 11名 副審 4名





PR契約内容

- ・JFAから割当された試合(J1 J2 天皇杯等)の主審・4thを務める
- ・FIFA/AFCより割当された試合(W杯予選 ACL オリンピック予選等)の主審・4thを務める
- ・トレーニングキャンプ(1泊2日/月)へ参加する
- ・研修会(Jリーグ研修会 1級研修会)へ参加する
- ・サッカーの振興に関連する諸活動を行う

単年契約で年俸制(基本報酬+出場報酬)

※休業補償はない = 全て自己責任



日本サッカーの現状・課題

JFAの最終目標



DREAM
COURAGE TO ACHIEVE

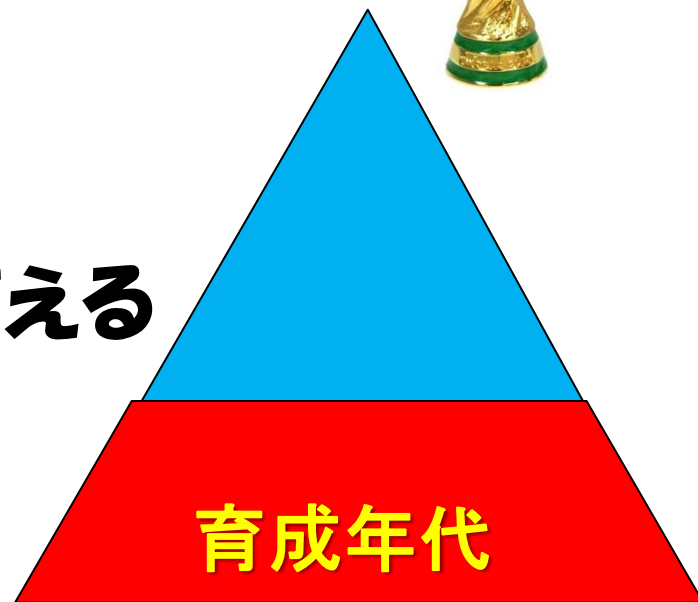
W杯でA代表(SAMURAI BLUE)が優勝

A代表の活躍

= 日本サッカーの発展

育成年代

**= 将来の日本サッカーを支える
(ピラミットの基礎)**



現在の日本の不安要素

A代表への道のりが険しい？

- **U-17 FIFA World Cup**
2015 出場権なし
※アジアで4枠
- **U-20 FIFA World Cup**
2015 2013 2011 2009 出場権なし
- **U-23 アジアカップ2014 準々決勝敗退**
※ リオ・オリンピックはアジアで3枠のみ



W杯2014 総括

—FIFA技術レポートより—

- 「**負けないプレー**」ではなく、「**勝つための積極的なプレー**」が増えた
 - 171ゴールのうち、34ゴールは**速攻**から生まれた
 - 64ゲームのうち、21ゲームは**ボール保持率が低い**チームが勝利した
-

克服しなければいけない課題

「球際の強さ フィジカルコンタクト スピード」

海外での試合を経験して・・・日本のサッカーは・・・

- 技術力は高い
- 横パス&バックパスが多い
- 中盤でのボール回しが長い
- ホールディングが多い
- ※ 1stディフェンスの違い





8人制サッカーに伴う1人審判

➤ **8人制導入の背景**

育成年代の技術力向上のためには「たくさんボールに触れること」が大切であり、また11人制よりも狭いフィールドであるため、高いレベルでの「蹴る&止める」という技術が身につく。

➤ **1人審判**

フェアプレーの精神を養うこと

判定は審判に任せる、委ねる = refer





1人審判の問題点

- **正しい判定をジャッジする難しさ**
ファウル、タッチジャッジ、オフサイド・・・
フィールドの中では判断することが多すぎる
※選手、ベンチ、父兄からの批判、非難
- **資格を取得することに躊躇する**
「副審ならやるけど、主審はちょっと・・・」

**JFA・・・1人審判あいきでなく、レベルに応じて
柔軟に対応すること**



1人審判をするにあたって

- **対角線式審判法にこだわらない**
→副審がないため
 - **優先順位をつける**
→ペナルティエリア近辺の判定は重要度が高い
 - **正しい競技規則を理解させる**
→ファウルをさせないための声かけ
-